

平成七年度の決算のあらましと、九月三十日現在の平成八年度一般会計予算の上半期執行状況をあわせてお知らせします。

皆さんからの貴重な税金は、富士市のまちづくりのため、どのように使われているのでしうか。

富士市の財政報告を知らんくください。

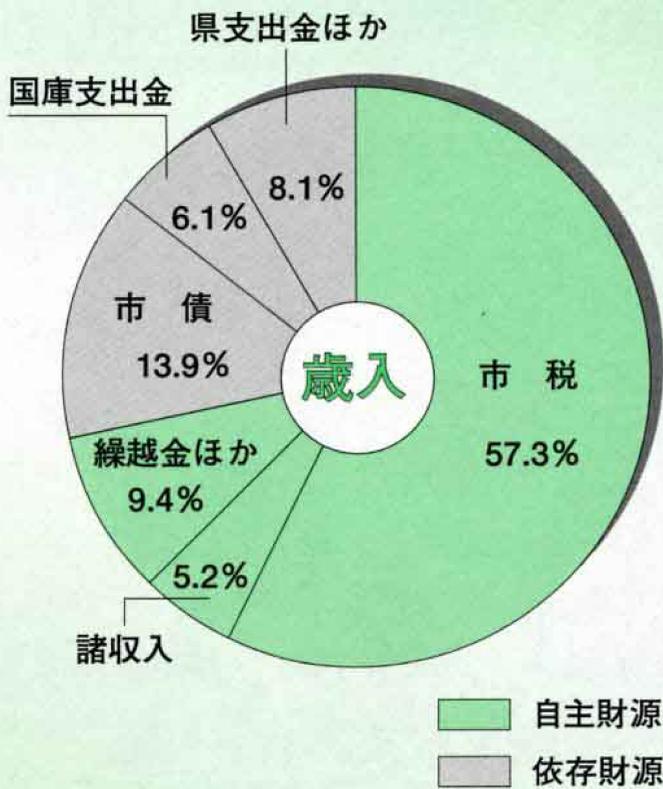
# 富士市の財政報告

健康で明るく  
住みやすい  
まちづくりを目指して

## 歳入

会計年度内に入ってきたお金

財源別歳入 729億411万円



科目別	収入済額
総額	729億 411万円
市税 (市民税・固定資産税など)	417億7,085万円
市債 (市の借入金)	101億2,050万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	44億6,835万円
諸収入 (貸付金元利収入など)	38億 670万円
繰越金 (前年度からの繰越金)	25億7,472万円
県支出金 (県からの補助金など)	21億1,442万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	18億9,562万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	17億1,794万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	16億7,210万円
利子割交付金 (県から交付される利子割県民税)	9億3,399万円
自動車取得税交付金 (県から交付される目的税)	7億 562万円
その他	11億2,330万円

平成七年度は、景気回復の動きが弱く、厳しい財政事情のもとで、健康で明るく、住みやすいまちづくりを目指して、都市基盤の整備や教育・文化の振興、福祉施策の充実、産業の活性化など、限られた財源を有効に使いながら、さまざまな事業を行いました。

主な事業としては、都市形成基盤となる道路・街路の整備や土地区画整理事業を初め、阪神・淡路大震災を教訓に地域防災計画の見直し、富士マリンプールの建設や第二清掃工場(し尿処理施設)の建設、新市施行(二市一町の合併)を記念して進められてきた広見公園の整備事業などが挙げられます。

**一般会計**

一般会計は、市税収入を主な財源として道路整備や、教育、福祉などに使う会計のことで、平成七年度一般会計の決算額は、歳入が七百二十九億四百一十一万円、歳出は六百九十九億千三百八十六万円でした。

富士市の歳入は、市税などの自主財源が七一・九%、市債や国庫支出金などの依存財源は二八・一%となっています。

歳入で一番多いのは、市民税や固定資産税などの市税。全体の五七・三%を占め、四百十七億七千八百五十万円です。この額は、市民一人当たり約十八万円を負担していただいたこととなります。

次に、歳出を科目別に見ると、土木費がトップで全体の二二%を占めています。市道や都市計画街

▶平成七年度は、地域防災計画の見直しや、避難路・避難地の整備を重点課題として取り組みました。



◀新市施行を記念して整備を進めてきた広見公園が、十一月十五日に全面開園。平成七年度は、公園の完成に向けて整備を行いました。

▶し尿と浄化槽の汚泥を処理する第二清掃工場のプラントが老朽化したことにより、更新建設工事を進めました。



◀ことしのオープンを目指し、平成七年度事業として整備を進めた富士マリンプール。この夏は、大勢の利用者にぎわいました。

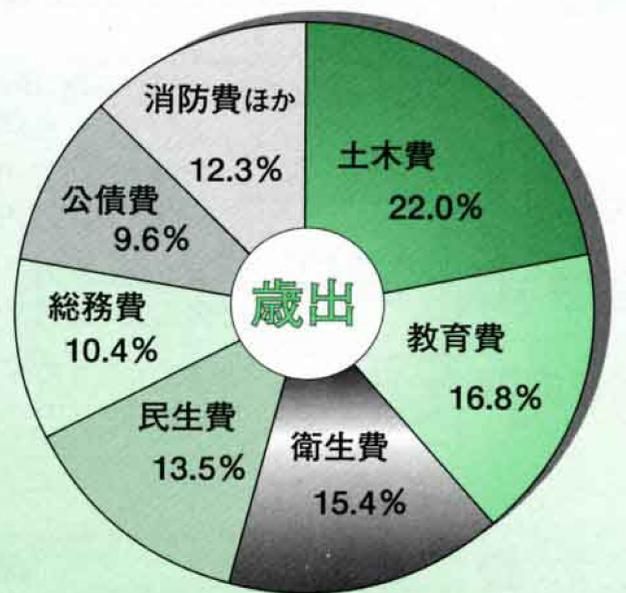
## 平成7年度 一般会計決算

### 歳出

会計年度内に使ったお金

科目別	支出済額
総額	699億1,386万円
土木費 (道路や公園などの整備に)	154億1,581万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	117億6,582万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	107億5,065万円
民生費 (社会福祉などに)	94億1,853万円
総務費 (庁舎管理や人件費などに)	72億4,376万円
公債費 (借りたお金を返すために)	66億9,013万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	24億7,423万円
労働費 (働く人のために)	20億5,358万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	17億8,061万円
商工費 (商業や工業の発展のために)	16億3,233万円
議会費 (議会の運営のために)	5億3,757万円
その他	1億5,084万円

目的別歳出 699億1,386万円



路の新設改良事業、富士駅南口広場人工地盤の整備など、快適なまちづくりのための市街地整備に百五十四億千五百八十一万円を使用しました。  
 なお、歳出を市民一人当たりに使ったお金の換算すると、約三十万円になります。

#### 特別会計・企業会計

行政の基本的な経費を一般会計といい、特定の事業ごとに分けて、別個に会計を設けている事業費を特別会計といいます。富士市には、国民健康保険事業や老人保健医療事業、下水道事業など、十六の特別会計があり、平成七年度の歳出総額は三百二十七億四千九百三十三万円でした。

また、企業会計とは、公営企業である水道事業会計と病院事業会計のことをいいます。平成七年度の水道事業会計は八千五百十一万円の純利益、病院事業会計は五千八百二十五万円の純損失がありました。

※自主財源・・・市がみずからの手で収納したり徴収したりできる財源のこと。例えば、市民税、固定資産税、諸収入、繰越金、使用料や手数料など。

※市債・・・市が建設事業などを行うため、国や銀行などから長期にお金を借ること。

※依存財源・・・自主財源に対して、国や県からの収入のこと。市債、国庫支出金、県支出金、地方譲与税など。

# 企業会計決算

平成7年度

## 水道事業

事業収益合計 29億1,023万円  
 事業費用合計 28億2,512万円  
 純利益 8,511万円

## 病院事業

事業収益合計 109億6,470万円  
 事業費用合計 110億2,295万円  
 純損失 5,825万円

富士市には、十六の特別会計と二つの企業会計（水道・病院事業）がありますが、右の表では、財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略しています。

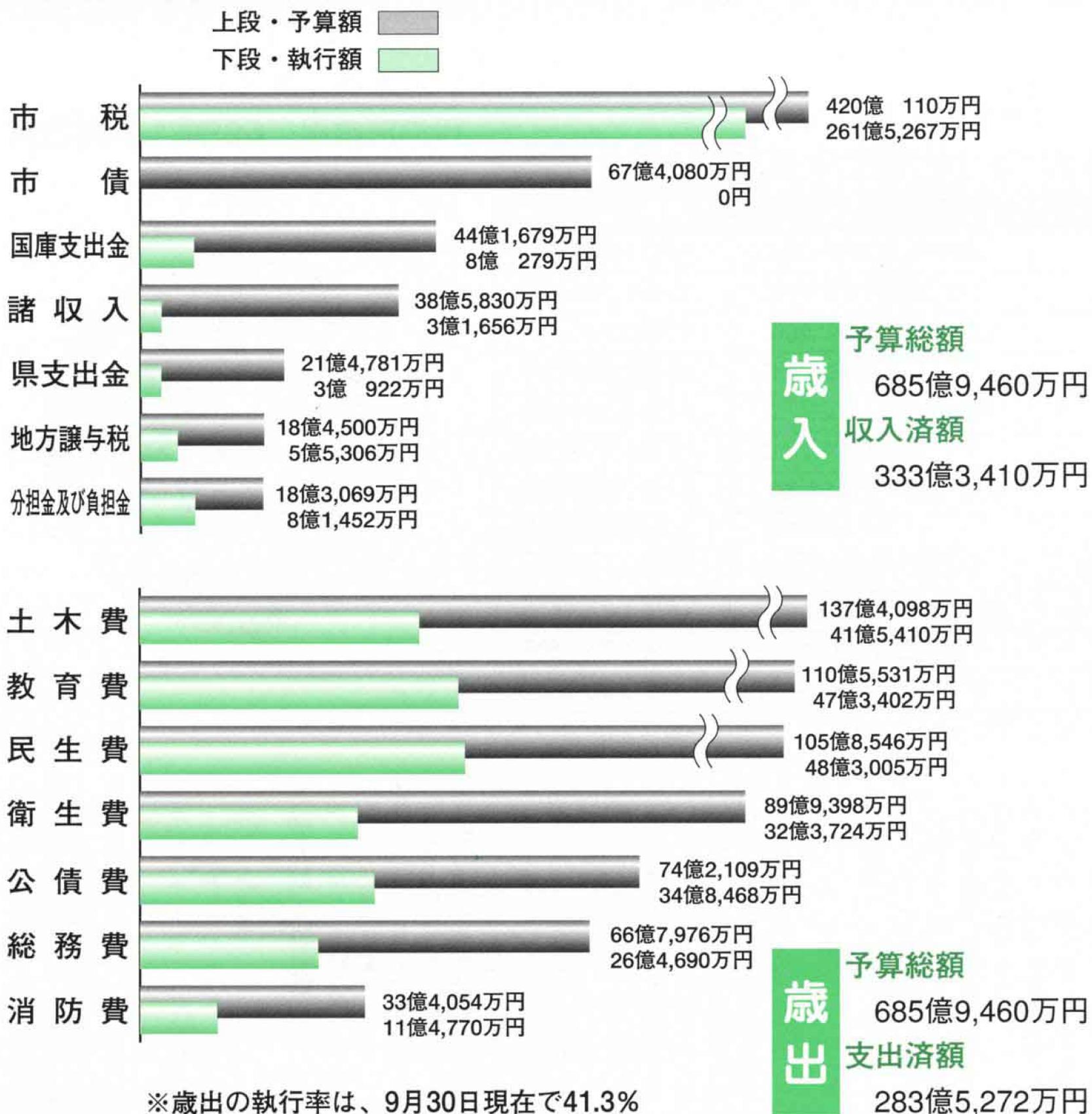
# 特別会計決算

歳入 339億3,559万円

歳出 327億4,933万円

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	109億3,760万円	102億 943万円
老人保健医療事業	108億4,047万円	107億8,928万円
下水道事業	98億5,843万円	98億 47万円
富士中部土地区画整理事業	12億2,759万円	11億6,140万円
公共用地先行取得事業	3億8,637万円	3億8,637万円
地方卸売市場事業	2億4,076万円	2億3,680万円
駐車場事業	6,348万円	6,020万円

## 平成8年度の一般会計は 追加補正して685億9,460万円



※歳出の執行率は、9月30日現在で41.3%

平成八年度

一般会計の上位七科目予算と執行状況